

ロータリー財団月間 世界インターアクト週間

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

泉 博朗

(大阪帝塚山RC)



ロータリー財団月間

ロータリー財団(R財団)は1917年RI会長アーチ・クランフが「基金を作り、世界的規模で善意・教育・その他社会奉仕分野で何か良いことをしよう」とアトランタ国際大会で提案したことから始まりました。この基金が発展し、1928年R財団と名付けられ、RIから独立した別機関となりました。

昨年の2013年度よりFVP「未来の夢計画」として、R財団が、全く新しい形で始まりました。当地区では、初年度である2013～2014年度は地区補助金44件、グローバル補助金13件(内奨学金3件)の実績があり、本年度は38件の地区補助金および、10件のグローバル補助金(内奨学金1件)の申請予定があります。数の上では、この2年間ですべてのクラブ数に匹敵するクラブが活用したことになり、クラブの社会奉仕活動、国際奉仕活動に多大な支援をした事になっております。このR財団補助金は、皆様の寄付から成り立っていますが、その年次寄付の部分が、3年後に私たちの手元に補助金として返ってくるわけです。当地区では、溝畑R財団委員長率いる、財団委員会の皆様のおかげで、大変うまく、活発に活用されていると感じております。

R財団のもうひとつの大きな事業は「ポリオ・プラス」であります、1979年にフィリピンで600万人の児童にポリオ予防接種をすると

いう5か年のプロジェクトを開始しました。そして1980年初めに世界中の児童にポリオの予防接種をするというプログラムを計画し、1985年にポリオ・プラス・プログラムを設けました。日本では、日本の東京麹町ロータリークラブ山田つね氏が大きく貢献したことはよく知られています。

6つの重点項目

- 平和と紛争予防／紛争解決
- 疾病予防と治療
- 水と衛生設備
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上
- 経済と地域社会の発展

また、紛争解決と平和に関する国際問題について研究するために「ロータリー平和フェロシップ」があります。ロータリー平和フェローは2年間ロータリー平和センターで学び、紛争解決等のリーダーとなることを期待されています。

世界インターアクト週間

インターアクトは1959-1960年度RI会長ハロルドトーマスが、青少年が世界的に連携して活動できる組織の必要性を訴え、2年後の1962年RI理事会により「インターアクトプログラム」が宣言されました。世界最初のIACはアメリカフロリダ州メルボルンRCが提唱した

メルボルン高校IACです。インターアクトは12歳から18歳の青少年が学校を単位とし、RCが提唱するクラブであり、その年齢は、アメリカのハイスクールの年齢構成に合致しています。日本での最初のIACは1963年認証の宮城県仙台育英学園IACで、1967-1968年度には「インターアクト国際ロータリー賞」を受賞しました。RIは毎年11月5日を含む1週間を「世界インターアクト週間」としています。インターアクトとは「International Action」を意味し、青少年が奉仕と国際理解に貢献することを目的としています。

2660地区では昨年度新たに大阪国際大和田中学高等学校が認証され、四天王寺学園中学高等学校、浪速中学校高等学校、金光八尾中学校高等学校、清風中学高等学校、相愛中学高等学校、大阪桐蔭中学高等学校の7校が活動しています。各校のIACは種々の奉仕活動を、年間を通じて行っていますが、当地区の事業として、年に一回の海外研修、

年次大会を開き、各学校の枠を超えて互いに交流し、共通の奉仕活動を行っています。

海外研修はインターアクトの発祥の目的が「International Action」であることから最も重要な行事であり、一度に全員が参加することは出来ませんが、年度に分けて全員が一度は参加できることが望ましく思います。インターアクトクラブの特色として「学校単位」の活動であり、学校ではクラブ活動に類似したクラブとして認識されています。よって、各学校にはIAC顧問が任命され、提唱RCはIAC顧問を通じて活動のすべてを行っています。1999年版学習指導要綱から「クラブ活動」がなくなりましたが、部活動の教育的意義を認め、学校内で完結するのではなく学校外の諸機関と連携・協力活動を行うことも示されています。そのような状況において、IACは長年の歴史と実績があり、今後、ロータリーが担う活動のひとつであると感じており、多くの提唱を期待しています。